

聖霊降臨後第3主日 (使徒ペテロ・使徒パウロの日)

2025年6月29日

風のように



甘木教会

主任牧師：白川道生 牧会委嘱牧師：竹田孝一

わたしを通して福音があまねく宣べ伝えられ、すべての民族がそれを聞くようになるために、主はわたしのそばにいて、力づけてくださいました。 テモテニ 4：17

「ペテロに、わたしに従いなさい」と言われた。

ヨハネによる福音書21：19

### 【説教要旨】

新約聖書は、1世紀から2世紀にかけて書かれた文書です。数多い文書からどれを聖典であるかを教会は時間をかけて決めていきました。397年のカルケドン公会議で、私たちが持っている27巻の新約聖書を聖典としました。しかし、最後までヤコブの手紙、ヨハネ黙示録をどうするか課題は残り、16世紀、プロテスタント教会は、ルターのドイツ語聖書翻訳により、カトリックはトリエント公会議で今の私たちが持っている聖書が新約聖書となりました。長い月日をかけて新約聖書は出来上がっていきました。

福音書はイエスキリストの生涯を記した文書です。ペテロと、パウロについては、使徒言行録です。二人の手紙、特にパウロの手紙が多くあります。この3部作で新約聖書が出来ています。良き訪れの振る舞い、お言葉を、使徒が伝えたのです。

キリスト教は、当初、ユダヤ教の一派としてユダヤ教ナザレ派として、自分たちも、外の人たちと思っていたのですが、それから66年から70年の頃ユダヤ独立戦争のとき、キリスト教徒は、エルサレムから逃避し、完全にユダヤ教と分かれ、90年のユダヤ教のヤムニア会議で、決定的にユダヤ教から分離していくことになりました。また、内部において

も、特に、ペテロとパウロの二人は、民族、人種、国、身分を越えて、遍く神の福音をいただくということが出来るということを伝えた人たちです。二人は60年ごろ殉教をします。ペテロ、パウロが伝えた信仰がキリスト教の主流となってきます。神は、その基を作るためにペテロ、パウロを用いたのです。この二人のことについて書かれた文書が「使徒言行録」です。

森一弘司祭は、ペテロを「自分の弱さを知り、イエスの愛に生きた」人だと言います。一番弟子ですが、イエスさまが十字架に架かる前にイエスさまのために命を捨てますと言いますが、裏切ってしまいます。「ペテロは、『鶏が二度鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう』とイエスが言われた言葉を思い出して、いきなり泣き出した。マルコ14:72」と福音記者が記したように実に弱い人であり、弱さに泣く人でした。森神父は、「自分への信頼は、『あなたもあの人の仲間ですね』と言う一言によって粉々に打ち砕かれてしまいます。裏切りを通して、彼は自分が限りなく弱いものであることを知ります。こうして彼は人生の土台と支えは、自分の力でなく、イエスの愛と力にあることを知るのです。

率直に『愛しています』とイエスさまに宣言することが出来ず、『私があなたを愛していることを、あなたはよく知っておられます』というゆだねの言葉は、弱さを知った人間の言葉です。イエスへの全き信頼の中に生きようとするペテロ。ここに新しいペテロの誕生があります。」とされています。「自分の弱さを知り、イエスの愛に生きた」ペテロです。

井上洋二神父は、パウロを「キリストを運んだ男」と言います。パウロは、キリストとの劇的出会いを通して、キリストの弟子となり、ユダヤ教の枠を超えて、当時の世界、ヘレニズム世界へキリストの福音を伝えた人であり、全世界に「キリストを運んだ男」です。今日のキリスト教教会はパウロによって作られたと言っても過言ではないでしょう。キリスト教を迫害していたパウロ、罪深いパウロを拒絶することなく、「サウロ、サウロ・・・」と呼び掛けてくださり、限りなく赦しをいただきながら、温かく迎え入れてくださるイエスさまに出会えたパウロが、他のどんな人よりもキリストの愛に応えていうことというのは当然の帰結だったと思います。彼は強い人であったのですが、こういう言います。「だから、キリストの力がわ

たしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。…なぜなら、わたしは弱いときにこそ強いからです」と。パウロも弱さを知った人だったのです。この罪深く、弱いパウロ、わたしのために十字架にキリストは架かり、罪を赦し、愛を示されました。これこそ、神の恵みです。パウロはイエス・キリストの十字架の愛、恵みを与えられた人です。「パウロが記すように、『艱難も、苦しみも、迫害も、飢えも、裸も、危険も、剣も』押しつぶすことができなかつたほど(イエスの愛)絶対です。………実に『わたしたちは、わたしを愛してくださる方によって輝かしい勝利を収めています。わたしは確信しています。死も、命も、天使も、……どんな被造物も、……神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです』」。パウロもイエスの愛、恵みを生きた人です。森本哲郎氏は、「神の旅人—パウロの道を行く— 新潮社」の結びに「人間の世界ら悪は追放されなかつた。けれども希望だけは確保されたのだ。『神の旅人』パウロの使命はそこにあつた。パウロの旅の終着点はまさに『愛』だったのである。」と結ぶ。

「ペテロに、わたしに従いなさい」とは、それは、ペテロ、パウロが伝えてくださった神の愛、イエス・キリストの愛に従っていきなさいということです。イエスが与えてくださった神の愛に従っていくとき、導かれていく、私たちの人生の旅の終着点はまさに『愛』なのです。

私たちは弱い者です。弱いゆえにイエスさまの愛に生きることによって、新しい誕生と創造が起きるのです。「そればかりでなく、苦難をも誇りとします。」というそればかりでなく、これから襲ってくる苦難をも誇りとする新たな人と誕生と創造された人になっているのだとイエスさまは言われるのです。

使徒ペテロ、使徒パウロの日のこのとき、二人から「自分の弱さを知り、イエスの愛に生きた」ことが、どんなに力強い歩みになるかを私たちは嘯み締めていきたいのです。この二人が与えられた神の愛、恵みが私たち一人ひとりに豊かに与えられています。社会全体が大きく揺さぶられています。しかし、神の愛、恵みは確かなものです。

引用:「みことば調べの」 森一弘 サンパウロ

「神の旅人—パウロの道を行く—」森本哲郎 新潮社

## 牧師室の小窓からのぞいてみると



戦後、80年です。1945年の東京大空襲で10万人を越す人が犠牲になり、各地で空襲がありました。6月19日の福岡大空襲もあり、1,000人以上の人が犠牲になりました。そして、6月23日で終わった沖縄戦では20万人以上の方が犠牲になりました。8月は広島、長崎に原爆が投下されました。

私たちは、80年と月日の中で、いつの間にかどこかで記念の日だけを守ればよいという気持ちになっていないでしょうか。今、ウクライナで、イラン、ガザで起きている犠牲者の数を聞きつつ、まったく無感動になっていませんか。もっと、私たちは、犠牲者の数に強い痛みを持てる人でありたいのです。だから、戦争は大きな犠牲者を出すのになぜ、人は戦争するのか、どうすれば戦争を止められるか問いなすことです。

沖縄県知事の「私は、この小さな沖縄から、不条理な現状を打破するため、そして世界の恒久平和のため、何ができるのか、真剣に考え、国際社会と協調しながら、たとえ、微力でも行動していきたいと考えています。私は、戦後80年の大きな節目を迎えた今、戦後90年、100年を見据えた長期的な視点に立ち、世界の恒久平和に向け、沖縄が果たすべき役割を、いまここに掲げ、世界に向け発信します。」という平和宣言を実現していきたいものです。

「平和を創り出す人は幸いである。神の子と呼ばれるだろう」というイエスさまの言葉をいつも心に刻み、平和を創り出すことに汗をかきましょう。

## 園長・瞑想？ 迷走記



先日、幼稚園の運営委員会、委員の一人が、「遊びを深める」という表現だけでなく、「遊びを深めることを通して、学びを深める」という表現が正しいと言われたことに、なるほどと思った。

表現するとき言葉を注意して使わなければこちらが伝えたいことを伝えられないと深く反省した瞬間である。園長は、子どもたちのために、良き言葉の表現者と磨いていかななくてはならない。

## 日毎の糧

【ミクタム。ダビデの詩。】神よ、守ってください/  
あなたを避けどころとするわたしを。主に申します。

「あなたはわたしの主。あなたのほかにわたしの  
幸いはありません。」

詩篇16：1～2



### ルターの言葉から

愛する神よ、どうかあなたご自身がこれを治め、導いてく  
ださい。私は喜んで自分の眼を、理性もろともえぐり取り、  
みことばによってのみ治めになるあなたにおまかせします。

『ルターの祈り』 石居正己編訳 聖文舎

### 信頼

3篇から41篇は「ダビデの詩篇」に属するが、本文の破損が  
あり、解釈が難しいとされている。

全体的に見るならば、ヤーウェへの信頼と讚美の詩篇であると言  
える。「神のもとで、神を前にして、神と共に歩むとき、人は  
豊かな喜びと平安に満たされる。これが詠い手の確信であり、本  
詩を貫く信仰であった。このような信仰それ自体はヤハウエ宗教  
の一般的特徴を示すのであって本詩に限られた訳ではない。」①

一般的特徴はキリスト教に繋がっていくし、旧約の根本モーセ  
の十戒にも繋がっていく。

「新約聖書においてパウロが『主キリスト・イエスを知る知識  
の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損と思う』と極限して  
いるのと（ピリピ3：8）その根本において相通じるものがある  
と称して誤りではないであろう。またヤーウェへの信頼が、それ  
をもって最上善とする、ということは『汝 我の外何ものも神と  
すべからず』と命じたモーセの十戒の根本精神がこの詩の中に美  
しく豊かに歌われているのをわれわれは見る事ができる。」②

① 詩編の思想と信仰Ⅱ 月本照男 新教出版

② 詩編 浅野順一 岩波新書

祈り：主よ、すべてにましてあなたを信頼して歩むことの出来る信仰の  
力を与えてください。アーメン

甘木通信

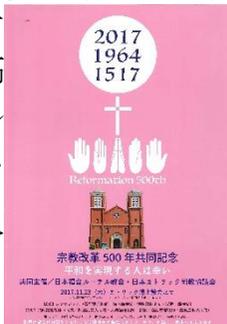
## 「これから平和を作り出そう」

イスラエルとイランの紛争は、ようやく停戦合意が出来そうです。しかし、ロシアのウクライナ侵略戦争は終わらず、イスラエルのガザへの攻撃も終わっていません。世界中で紛争があります。そして、どの国であっても戦争に巻き込まれるような状況が続いて、世界の終わりさえ感じる不安の中にいます。

私が戦争は絶対してよくなったのは、高の消灯後の出来事でした。ここに行かれましたか、す。戦争の体験です。ので、その場に自分をさえ感じました。

2017年11月、カトリック教会とルーテル教会は、共に平和を祈り、共に力を合わせて何ができるかということで、一致のシンポジウム、礼拝を被爆地・浦上天主堂でささげました。『対立から平和の実現に向かうモデル』として世界に示すことができれば幸いです。」とカトリック司教協議会は声明を出しました。

2017年に平和を祈り、共に力を合わせて何ができるかということを実際に問うたことを戦後80年目のこのとき、厳しい現実があっても、未来へ向けて「平和を作り出す人は幸い」であるというイエスさまのお言葉を自分のものとしていきたいと思えます。



はいけないと思う校生の時代の病室だ。「あなたは、どこ」「どこ」、戦地でそれは生々しいも置き換えると恐怖

(甘木日記)土) 羽村幼稚園の理事会、評議員会。再度、理事長に選任される。東京から福岡。帰宅は23時を越す。日) 早朝6時の電車で甘木教会。庭の掃除、礼拝、庭の草取り、役員会。数日分を一日で。月) 幼稚園、礼拝、運営委員会、園だよりの作成。帰宅は21時を越す。火) 幼稚園に一日中。帰りに大雨に会い、職員に自宅まで送っていただく。水) 雨が激しく降ったり止んだりの日。職員会議、お付き合いで今日は終わる。木) 保育園での聖書の学び、子供礼拝、甘木教会で半日。金) 真夏!屋上で子どもらとプール遊び。昔のように外で遊ぶということが難しい。

**おまじ・牧師のぐち**（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。ぐちらない聖人（牧師）もいますが。



土) 朝、10時から羽村幼稚園理事会、評議員会と日々変わる制度変更の中、少子化の中で遊び込み、学ぶ幼稚園を維持していきたい。新たな理事会で理事長に。帰りの飛行機まで時間があり、家内への土産、そして蕎麦を食べに途中下車。夕刻、息子と孫に会う。孫が選んだ本を買う。父が惜しまず本を買ってくれたように。空港に行き、日善幼稚園の先生方に「東京の〇〇が食べたい、空港で売っています」ということを思い出す。購入。安い切符を買うので最終便か、その前の便。福岡、最終バスに。日) 6時〇分の電車で甘木に行く。今日は庭の掃除は良いかと思いつつも継続は金なりで、汗をかきつつ。礼拝、役員会と続く。雨が強く降る。今日も久留米まで車で送っていただくので、日善幼稚園に植える赤紫蘇の苗を持っていける。有難い。月) 道路が小川のようにになっている激しい雨の中を幼稚園に。雨が止む合間を見て昨日の赤紫蘇を植える。大きくなれ。幼稚園運営委員会。7月の園だより作成、修正し、英語、タガログ語にしていると21時を越す。火) 移植した赤紫蘇苗も元気。帰宅時に大雨で、雨が弱くなるまで仕事を思っていたら、先生が自宅まで送ってくださる。送ってくださった先生は中学生の時代から知ってお父さんに似てきた。たくさ感謝。歳を取るといことはを讀もうと思うが、リュックに手をかけることもなくうたた寝。(笑)水) 今日 (名古屋時代の苦瓜の緑のカーテン) 激しい雨が降ったり止んだりの一日。小さな幼稚園ではすることが多く、動く気廻っている。名古屋時代は苦瓜の緑のカーテンを作ったが、主任が苦瓜を苦手というので朝顔のカーテンを作ろうとしている。教えられた本を大切な方々に送る。少しでも役に立てばと願う。72歳になろうとしている老人にはよく動いて頑張っていると思う。同じ歳の家内も今日は、「友の会」例会。そして、幼稚園のお付き合いで、夜、食事会と一緒に付き合ってくれる。ブラジルのシュラスコ（焼肉）に慣れた私たちには、日本の柔らかい薄い肉はどうも歯応えがない。今度、幼稚園のお父さん会で、シュラスコをしようと思う。木) 午前中、松崎保育園で「聖書の学び」、「こどもの礼拝」をする。今月は「求めよさらば与えられん」という聖書の言葉、これをいろいろなところから黙想出来て嬉しい。金) 梅雨が明けたような空と日差し。そんな中で、屋上で年少、三歳未満の子と無邪気に水遊び。幸せな時であった。今週も神さまに守られた時を感じる時の流れであった。詩篇を読み閉じる。

